

# メキシコの政策金利引き上げについて

## ポイント① 政策金利を3.75%に引き上げ

2月17日、メキシコ中央銀行は緊急の金融政策決定会合を開催し、政策金利であるオフィシャル・オーバーナイト・レート（OFR）を0.50%引き上げ、年率3.75%とすることを決定しました。同中銀が事前の通知なしに金融政策決定会合を開催し、金融政策を変更したことは初めてだったことなどから、市場では驚きをもって受け止められました。

## ポイント② ペソ安とインフレ期待の高まりに対応

今回の決定の目的には、ペソ安を受けたインフレ期待の上振れにより、インフレ率が上昇することを防ぐことがあります。同中銀は声明において、原油価格の下落が同国の財政と経常収支に影響を与えており、ペソ安に伴うインフレ期待の高まりが、3%のインフレ目標の達成に即さなくなっている」と説明しています。

同時に、メキシコ財務省は原油安を受けて歳入減に見舞われている中で、2016年の歳出を昨年11月に可決された予算から約1,323億ペソ削減することを発表しました。この削減額は、同国のGDP（国内総生産）の約0.7%に相当します。

また、同中銀は為替介入方法の変更を発表しました。ペソの下落幅に応じた「ルールベース」での介入に代わり、ペソ買い介入の必要に応じて金融機関にドルを直接売却する方法を発表しました。従来の機械的な介入から自由裁量の介入への転換により、市場ではペソ安を見込む投機的な取引が行なわれにくい環境になるとみられています。

## ポイント③ 一連の決定を受けメキシコペソは上昇

2月17日の外国為替市場（ニューヨーク時間17時頃）では、今回の一連の決定が好感され、対米ドル、対円とも前日比2.8%程度のメキシコペソ高となりました。

同中銀は、今回の決定について「新たな利上げサイクルの始まりではない」と強調しており、今後の金融政策については、ペソの動向とインフレ率への波及効果を特に注視していくと説明しています。

図1：政策金利の推移

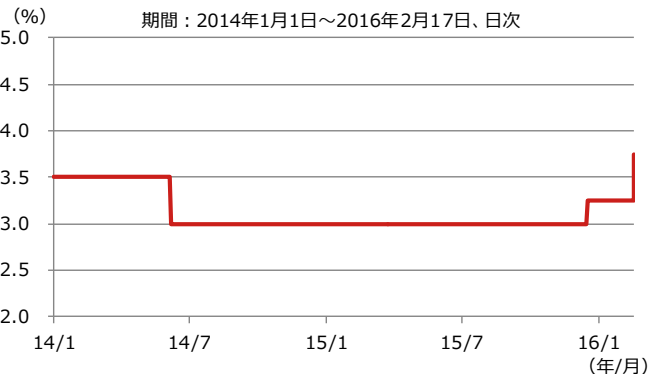


図2：消費者物価指数（前年同月比）の推移

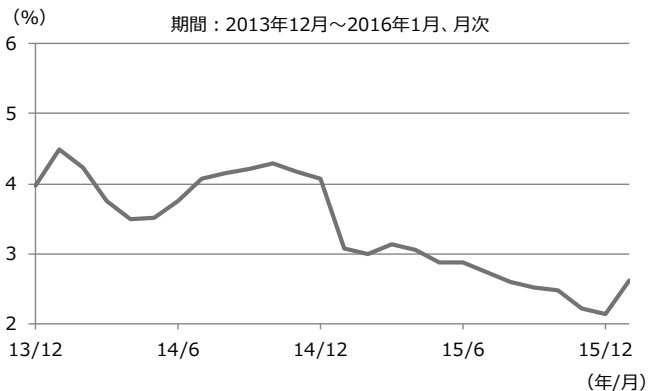
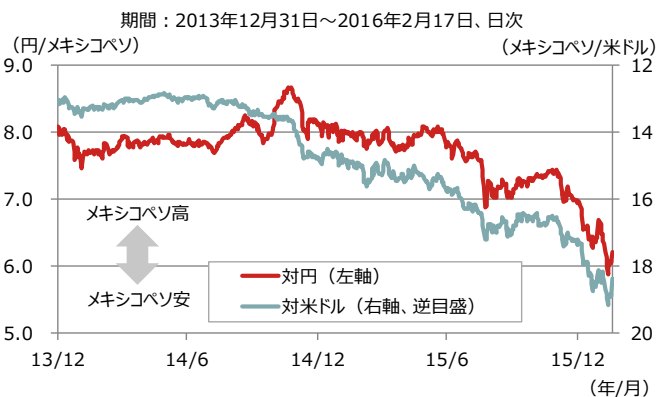


図3：為替レートの推移



（出所）Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

重要  
イベント

2月23日	GDP(2015年10-12月期)
3月9日	消費者物価指数(2月)
3月18日	金融政策発表